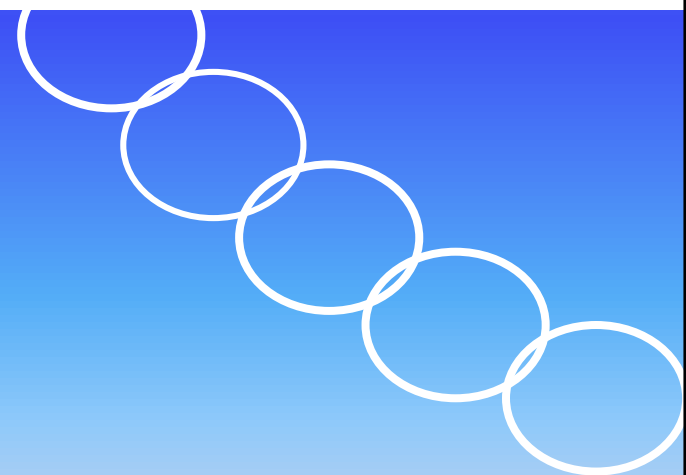


2020年3月期第1四半期 決算説明資料



2019年8月8日（木）

株式会社 **カネカ**

目 次

業績概要	1
セグメント別 売上高・営業利益	2
事業概況	3
貸借対照表	7
業績予想	8

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績概要

(単位：億円)

	2019年3月期 1Q	2020年3月期 1Q	増減	
			金額	%
売上高	1,523	1,488	△ 34	△2.3%
営業利益	100	70	△ 30	△30.0%
経常利益	91	55	△ 36	△39.9%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	63	35	△ 28	△44.5%
1株当たり四半期純利益	95.90円	53.53円		

(注) 当社は、2018年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益を算定しております。

- 世界経済は、米中貿易摩擦の激化により、世界のサプライチェーンに影響が波及し景気の減速が顕在化
- 当社の業績は、アジア・欧州での景気の減速、自動車やエレクトロニクス市場の低迷により、生産能力増強を図ってきた事業を中心に影響を強く受けた
- ポートフォリオ構造の変革を進めている頭髪、食品、健康、発泡、太陽電池等の事業は堅調

セグメント別 売上高・営業利益

(単位：百万円)

	売上高				営業利益			
	2019年3月期 1Q	2020年3月期 1Q	増減		2019年3月期 1Q	2020年3月期 1Q	増減	
			金額	%			金額	%
Material SU	62,491	60,176	△2,315	△3.7%	7,837	5,590	△2,247	△28.7%
Quality of Life SU	38,601	38,468	△133	△0.3%	3,695	3,728	33	0.9%
Health Care SU	11,415	10,949	△466	△4.1%	2,382	1,905	△477	△20.0%
Nutrition SU	39,454	38,908	△546	△1.4%	1,197	1,200	2	0.2%
その他	307	320	12	4.0%	164	180	16	9.7%
調整額	-	-	-	-	△ 5,277	△ 5,600	△322	-
計	152,271	148,822	△3,448	△2.3%	10,000	7,004	△2,995	△30.0%

※SU : Solutions Unit

Material	<ul style="list-style-type: none"> ➤ Vinyls and Chlor-Alkaliはか性ソーダの海外市況が改善せず ➤ Performance Polymers (MOD) は用途拡大が進むも世界経済の低迷による需要減の影響 ➤ Performance Polymers (MS) は需要がグローバルに拡大するなか能力増強が貢献
Quality of Life	<ul style="list-style-type: none"> ➤ Performance Fibersはアフリカで需要拡大し、四半期で過去最高の販売量 ➤ Foam & Residential Techsはスチレン系発泡樹脂で原料高の販売価格転嫁を進め、収益回復 ➤ PV & Energy managementは高効率太陽電池の販売が順調 ➤ E & I Technologyはスマートフォンの市場減速の影響を強く受けた
Health Care	<ul style="list-style-type: none"> ➤ Medical Devicesは高機能バルーンカテーテルや消化器用カテーテルなど新製品の販売が順調 ➤ Pharmaは低分子医薬の主要顧客への出荷タイミングのずれで販売量が減少
Nutrition	<ul style="list-style-type: none"> ➤ Foods & Agrisは提案型営業による拡販と乳製品のラインアップ ➤ Supplemental Nutritionは還元型コエンザイムQ10の販売が米国を中心に堅調

事業概況 (Material Solutions Unit)

売上高 602億円 (対前年同期 $\Delta 3.7\%$)

売上高構成比

40.4%

営業利益 56億円 (対前年同期 $\Delta 28.7\%$)

Vinyls and Chlor-Alkali

- 塩化ビニル樹脂及び塩ビ系特殊樹脂は国内外で低調
- か性ソーダについては、インド向け輸出の認証問題は解消したものの、海外市況は改善しておらず、大きく収益に影響

Performance Polymers (MOD)

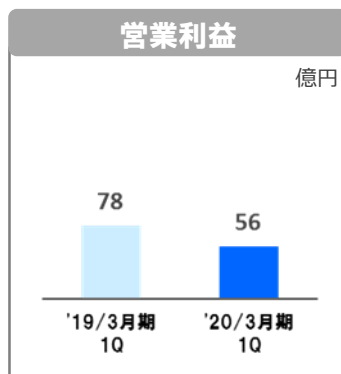
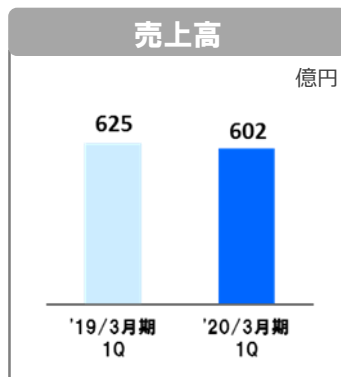
- モディファイヤーについては、新規用途である非塩ビ向け販売比率は向上したが、世界経済の低迷による需要減の影響を受けた
- エポキシマスターバッチは、自動車向け構造接着剤用への採用が進み、旺盛な需要に対応すべく能力増強工事を進めている
- 航空機・宇宙産業向け複合材の事業展開を更に加速するため、樹脂からプリプレグまでの一貫した生産設備の建設を進めており、立ち上げに向けて順調に進捗

Performance Polymers (MS)

- 変成シリコンポリマーについては、需要がグローバルに拡大しているなか、欧州では新たな用途開発も進み、販売が堅調に推移
- 昨年12月に稼働したベルギーの能力増強設備が収益に貢献

新規事業

- カネカ生分解性ポリマー-PHBH®については、世界的な使い捨てプラスチックの規制強化のなか、米国FDAに加え、欧州で果物・野菜袋用途などの包装材料として認定。更に、本年秋には欧州全域での食品用途に対する使用が可能となる見通し
- 国内では大阪で6月に開催されたG20においてマイクロプラスチック問題のソリューションとして大いに注目され、引き合いが急増。コンビニや化粧品メーカーなど大手顧客において、ストローやレジ袋、包装材など幅広い用途に採用。年末には5,000tプラントの稼働を予定しており、更なる需要拡大に向けて今年中には本格量産プラント建設を決定する見通し

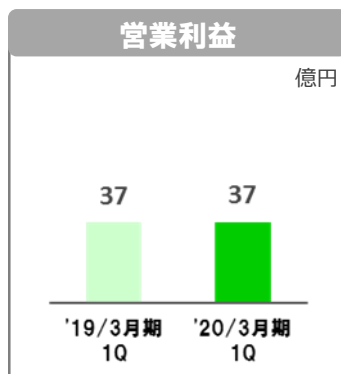
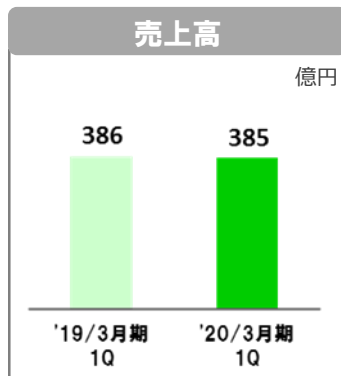


事業概況 (Quality of Life Solutions Unit)

売上高 385億円 (対前年同期 $\Delta 0.3\%$)

売上高構成比 25.8%

営業利益 37億円 (対前年同期 0.9%)



Performance Fibers

- ・ アフリカ市場における頭髮分野の需要は引き続き順調に拡大し、当第1四半期は過去最高の販売量となった。高機能頭髮としてのブランドを更に強化し、アフリカ及びその他市場での新しい需要開拓を進展
- ・ 難燃分野の作業服向け販売を拡大

Foam & Residential Techs

- ・ スチレン系発泡樹脂は、原料高の販売価格転嫁を進め、収益が回復
- ・ 押出ボードは、土木・建築工事の遅れによる需要低迷に加え、物流費高騰が影響
- ・ 発泡ポリオレフィン は、中国における自動車販売台数減少の影響を受けたが、軽量化のニーズの高まりを受け、中期的には需要が拡大することから、タイ工場の立ち上げに次いでベルギーでの能力増強や新プロセス導入による事業基盤強化を進める

PV & Energy management

- ・ 高効率太陽電池の市場評価が高く、販売は順調に伸びており需要拡大に対応すべく増産体制の整備を実施。また、事業構造改革の進展に伴って収益力が改善
- ・ 窓や壁が発電するユニークな太陽電池が住宅やビルのゼロエネルギー・マネジメント・システム素材として注目を集めており、地球環境問題やエネルギー問題に対するソリューション事業として強化していく

E & I Technology

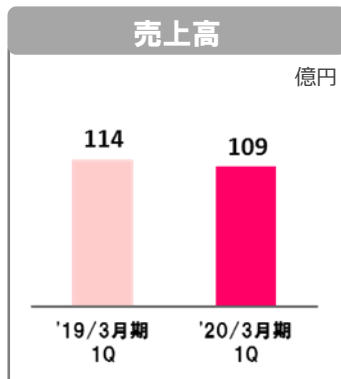
- ・ 超耐熱ポリイミドフィルムと超高熱伝導グラファイトシートは、スマートフォンの市場減速の影響を強く受けた
- ・ しかし、有機ELディスプレイや5Gスマートフォン向けポリイミドワニス・透明ポリイミドフィルム・新規ピクシオなど、技術革新が続いている新しい市場でユニークな新製品の販売が拡大

事業概況 (Health Care Solutions Unit)

売上高 109億円 (対前年同期 Δ 4.1%)

売上高構成比 7.4%

営業利益 19億円 (対前年同期 Δ 20.0%)

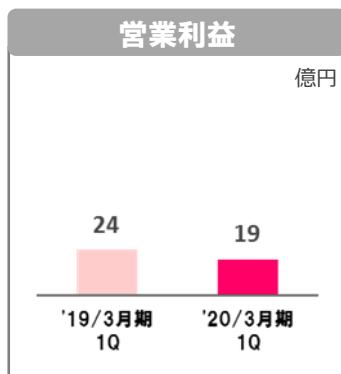


Medical Devices

- ・ 高機能バルーンカテーテルや消化器用カテーテルなど新製品の販売が順調に進んだことに加え、海外市場で販売が拡大。更に本年、国内外で新製品の発売を予定
- ・ 薬剤を塗布したバルーンカテーテルや電極カテーテルに加え、資本・業務提携した米国の医療機器会社の血流測定機器など新規医療領域での事業拡大を進める

Pharma

- ・ 低分子医薬は主要顧客への出荷タイミングのずれにより、当第1四半期は販売量が減少
- ・ カネカユーロジェンテック社のバイオ医薬品の販売は堅調に推移し、生産能力増強工事も完了し、来年の本格稼働に向けて顧客と新製品開発を進める

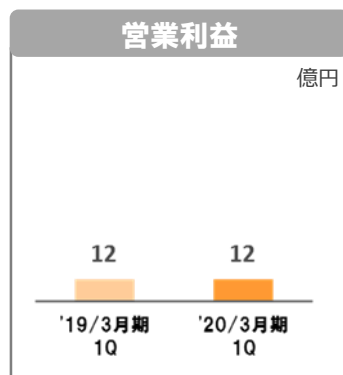
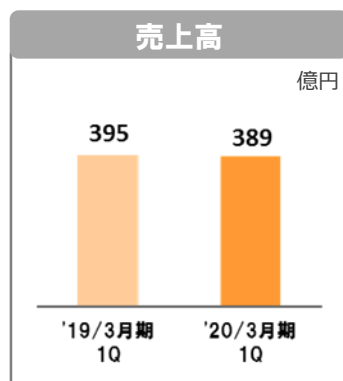


事業概況 (Nutrition Solutions Unit)

売上高 389億円 (対前年同期 $\Delta 1.4\%$)

売上高構成比 26.1%

営業利益 12億円 (対前年同期 0.2%)



Foods & Agris

- 国内（製菓・製パン）市場低迷の影響を受けたものの、大手製パン、コンビニエンスストアや食品メーカーへの積極的な提案型営業により販売が拡大
- インドネシアでは日本の美味しいパン・菓子文化の拡大期を迎えており、新工場建設工事も順調に進行中
- 乳製品事業では、「パン好きの牛乳」、「パン好きのカフェオレ」は、着実に市場の高評価を得ており、8月から「ベルギーヨーグルト ピュアナチュラル」を発売し、乳製品のラインアップの充実を図っており、乳製品の新工場建設の検討を急ぐ
- これらの活動を通して酪農家の生産性向上や循環型酪農の発展に貢献する

Supplemental Nutrition

- 主力の還元型コエンザイムQ10の販売が米国市場を中心に引き続き堅調に推移
- 連結子会社のスペインAB-Biotics社の乳酸菌サプリメント素材は、そのユニーク性が高く評価され、欧州市場で順調に販売が拡大。米国に続き日本での販売を予定
- 機能性食品での品揃えを充実させ、グローバルに事業を拡大

貸借対照表

(単位：億円)

	2019年3月末	2019年6月末	増減
資産の部			
流動資産	3,142	3,104	△ 39
固定資産 等	3,453	3,479	26
資産合計	6,596	6,583	△ 13
負債の部			
有利子負債	1,205	1,158	△ 47
その他	1,783	1,839	56
負債合計	2,989	2,997	8
純資産の部			
自己資本	3,370	3,345	△ 25
非支配株主持分 他	237	241	4
純資産合計	3,607	3,586	△ 21
負債純資産 合計	6,596	6,583	△ 13

- 総資産は、売掛金の減少等により前期末に比べて13億円減
- 負債は、買掛金の増加等により8億円増
- 純資産は、為替換算調整勘定の減少等により21億円減

業績予想

- 世界経済は、協議が継続している米中貿易摩擦は世界市場への影響が大きく、世界の金融政策、景気動向など不透明感が増し、景気の減速が顕在化
- 我が国の経済もオリンピックに支えられた内需拡大が継続しているものの、世界経済減速の影響が広がっており、世界経済の下振れ見通しが強まっている
- 当社グループは自動車、エレクトロニクスなど市場が減速するなか、事業ポートフォリオの変革を急ぎ、足腰の強い多様な事業構造と製品力の強化に取り組んでいく
- 以上より、連結業績予想は変更しない

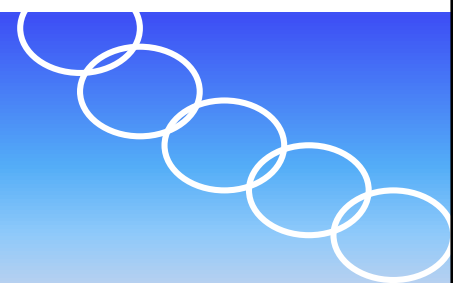
〈参考〉2020年3月期 連結業績予想（2019年5月14日公表）

（単位：億円）

	2019年3月期 （実績）	2020年3月期 （予想）	増減	
			金額	%
売上高	6,210	6,500	290	4.7%
営業利益	360	400	40	11.0%
経常利益	313	350	37	11.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	222	230	8	3.4%

※ 2020年3月期の為替レート、原料価格は、110円/米ドル、125円/ユーロ 国産ナフサ価格45,000円/KLを想定しております。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。



<IRに関するお問い合わせ>

株式会社 **カネカ** IR・広報部

TEL : 03-5574-8090